

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 5 月 7 日 更新

事務事業名		農道・用排水路等整備事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	6	産業の健康				所属部	産業振興部	課長名	坂本 卓博
	施 策	26	農業の振興				所属課	農政課	担当者名	菊池 勇陽
	施策の柱	69	生産基盤の確保と経営力の強化				所属班	農地整備班	(内線)	5226
予算科目		会計一般	款 6	項 1	目 12	事業連番 10271	根拠法令			
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・農業生産の基盤の整備及び開発を図り、もって農業の生産性の向上、農業総生産の増大、農業生産の選択的拡大及び農業構造の改善に資することを目的とする事業で、計画的に農業用施設の整備を行なっている。 ・農産物の荷傷み防止と作業効率向上を図るために農道や用排水路等を計画的に整備する。 ・農業基盤整備促進事業や農村地域防災減災事業等の補助事業を活用し、施設の整備や地域の防災力向上を図る。
【業務の流れ】	①区や農業者、行政機関からの要望を受ける ②要望の内容を踏まえ、現地確認 ③必要に応じ、測量や設計の業務発注及び地元説明会の実施 ④工事又は業務委託の発注手続き・実施 ⑤工事又は業務委託の完了後、検査
【主な予算費目】	・職員手当 ・需用費 ・委託料 ・使用料及び賃借料 ・工事請負費 ・原材料費 ・備品購入費 ・負担金補助及び交付金
【意見や要望】	・農作物等の荷傷み防止、冠水防止又維持管理に費やす多大な労力を節減する観点から、農繁期を考慮した計画を行い、極力早期の着工を望まれている。 ・農業者高齢化、後継者不足により、地元農家による農業用施設の維持管理(草刈り・泥上げ等)が困難となっている。 ・原材料支給については、できれば施工までお願いできないかという意見が地元から挙がっている。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 対象はいずれも市管理の施設であり、工事については、農業用施設の整備・改修・補修を4件実施し、委託については、排水路の測量設計業務委託を1件、雑草木除草処分等の業務を4件、農道の土砂撤去を1件実施した。		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 農業用施設の老朽化に伴う補修工事等や、農業用施設の維持管理を目的とした業務委託等を実施する
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 施工箇所数	箇所	緊急自然災害防止対策事業箇所の施工面積が増えた事による工事請負費の増
→ イ: 地元への説明会	回	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
農道、用排水路等の農業用施設		→ ア: 施工・委託数
		→ イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
農道、用排水路等の農業用施設を良好な状態に整備し、施設機能の維持または向上を図る		→ ア: 事業を完了した施工・委託箇所数
		→ イ:
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
工事・委託及び原材料支給により、農業用施設が整備され、農作物品質確保・農作業労力節減が図られ、収入に反映され则认为られる 過年度実績を基に目標値を設定		全体計画 ~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	ア	箇所	7	16	8	10	8	8	8	8	
	イ	回	7	16	8	10	8	8	8	8	
② 対象指標	ア	件	7	16	8	10	8	8	8	8	
	イ										
③ 成果指標	ア	件	7	16	8	10	8	8	8	8	
	イ										
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円			11,700	12,800	14,400			
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	9,355	9,349	9,587	8,026	10,176	29,236	93,236	93,236
	(A) 事業費計	千円	9,355	9,349	21,287	20,826	24,576	29,236	93,236	93,236	
		(A)のうち指定経費	千円	721	648	702	705	698	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	180	109	162	166	158	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	1,630	1,630	1,630	1,270	1,630	1,630	1,630	1,630
		(B)人件費計	千円	6,373	6,203	6,493	4,625	6,493	6,493	6,493	6,493
トータルコスト(A)+(B)		千円	15,728	15,552	27,780	25,451	31,069	35,729	99,729	99,729	

事務事業名	農道・用排水路等整備事業	所属部	産業振興部	所属課	農政課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部（CHECK）

*原則は 5 年度の後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	② 6 年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 過年度実績に基づき目標設定しているため。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 過年度実績における改善点の洗い出しや、技術基準の理解に努め、工事・業務成果の質の向上を目指す
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 令和 3 年度より、「農道等小規模改良事業」「県土地改良事業連合会参画事業」が本事業に統合されたが、現時点において、統廃合・連携できる事業はない
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 既に、測量設計等を職員にて行う等、事業費の削減を行っており、これ以上の削減余地はない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 限られた人員で事務事業を処理している一方で業務量は年々増加しており、これ以上人件費を削除できる余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 受益者負担の検討余地がある。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 市が管理する農道や排水路であるため、適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

- 農道や排水路等の農業用施設の良好な整備を行う。 - 要望や受益者の利便性を考慮し、早期に着工できるよう事務処理の効率化を図る。
--

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策